

# 市民力かわら版



## まちの発展のために行政とともに歩む 設立五十周年を迎えた矢板市商工会

正月の花市に始まって、つじ祭り、ふるさと祭り、花火大会、市民の日、暮々と、私たち市民にとってなじみの深い各種の行事に、主催者として、あるいは共催・協賛という形で深く関わっているのが矢板市商工会です。

今年、設立五十周年を迎えますが、身近にあってもなかなか一般市民にその活動を知られていない矢板市商工会。大森事務局長と樋口課長にお話をうかがいました。

●そもそも商工会って何をするとどこですか？

公益法人として、小規模事業者の経営改善、普及などの支援をする機関です。商工業に関する情報の収集や提供、調査研究など資質の向上のために指導・相談を行います。その他にも、共済や退職金制度などの窓口業務なども行います。国、県、市から一定割合で補助金が交付されますが、その他に会員からいただく

会費や、労災、雇用保険などの手続きでいただく手数料などを財源として運営されています。

矢板の会員は賛助会員も含めて現在755名です。なお、栃木県下には三十七の商工会がありますが、それらのまとめ役として栃木県商工会連合会があります。

●商工会としての課題と取り組みは？

今、経済状況はかなり悪く、とくに小規模事業者にとっては厳しい環境です。そんな中で、ピンチをチャンスに変えるために、現在とくに力を入れているのが、経営革新事業のひとつ、専門家によるエキスパートバンク事業の推進です。これは八つの分野について調査したうえで対応策を指導し、各事業者の抱える問題を専門家の知恵を借りながら解決していくというものです。

また、矢板独自に取り組みているのがプレミアム付き商品券発行事業です。昨年五千五百万円の予算を今年は一億一千万円

に増やし、この経済の冷え込みを少しでも打破していかうという取り組みです。昨年は一日半で売り切れ、10月22日、24日の間で販売した。市内の三十店舗ほどが店独自のスタンプ券の発行や粗品進呈、5%サービ

スなど、店オリジナルのサービスを行う事になっていいます。この取り組みが、売れる店作りを各自が考えるきっかけになると考えています。今年も商工会が設立され



ふるさと祭りダンスコンテストは青年部が。

て五十周年の節目の年。記念事業として、商工会の現状を分析し、十年後を見通した活動につなげるために、この五月に会員を対象にアンケート調査を実施し、その結果をまとめ上げる予定になっています。

●一般の市民は、花火大会、つじまつりなどのイベントも含めて、商工会に期待するところが大きいと思いますか？

「生まれ育ったところになにかひとつ役に立つことをしよう！」と、商工会青年部がふるさと祭りやダンスコンテストなどのイベントを企画し、市民とのコミュニケーションをとりながら頑張っています。また、最近、農工商連携のために、まずは土俵に上がろうという話で三十人ほどが集まって話をする機会がありました。

その中で、農業者から農機の改良を話したいけれど、難しいという話が出たとき、工業関係の人がそれなら自分なりに地域で互いに連携できる道筋がたかさんあることに気づかれました。これも必要になってくると思